

仙台市地震防災アドバイザー室へようこそ!



いつもご覧いただきありがとうございます。

今回の更新で24回目となりました。

100万人の防災!

「生き残り」「生き延びる」ための地震対策を始めましょう!

■緊急地震速報を有効に利用するには、自宅の耐震

平成19年10月17日掲載

地震の揺れがやってくるのを少し前に知らせるシステム、気象庁が発表する「緊急地震速報」が、10月1日から一般にテレビやラジオで供用を開始しました。



緊急地震速報です。
あと〇秒後に強い揺れが宮城県地方に到達します。



仕組みがどうなっているか?など詳しいことは、気象庁ホームページ(緊急地震速報)を参照ください。

さて、宮城県沖地震の場合、大きな揺れが到達するまで(仙台市まで)約15秒の猶予ができるそうです。今回はこの15秒で何をするか、「自宅にいる場合」についてお話しします。

- 1 身の安全を図る。
- 2 出来れば火を消す。
- 3 出来れば避難口を確保する。

やる事はこの3点です。特に「身の安全を図る。」ことです。2と3については「出来れば」でいいと思います。

「無理して火を消しに行ったため熱湯を被ってしまった。」なんてことが起きるかもしれません。

「身の安全を図る。」ために、たった15秒では新しいことは出来ません。

本番の備え その一 一日の生活で多くの時間を過ごす自宅の耐震性を再確認することをお勧めします



これらの写真は、今回の「新潟県中越沖地震」で倒壊した家です。

緊急消防援助隊として派遣され、撮影したものです。正直、遠目では「もう危険な建物の撤去が始まっているの？」と対応の早さを思い浮かべたのですが、残念なことに、廃材置き場と見まがうばかりに倒壊した家屋でした。

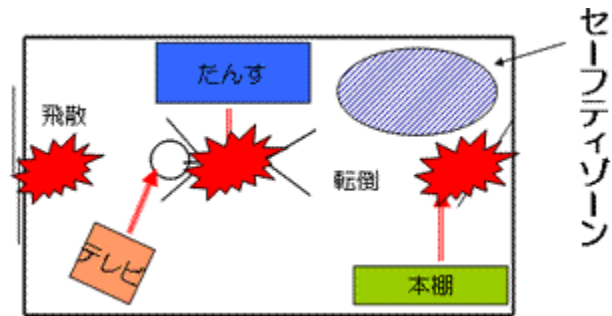
やはり**耐震改修＝多額の費用**という思いが頭を占めて二の足を踏んでしまうのでしょうか。

先の宮城県沖地震でもそうでしたが、壊滅的と言われる被害にあっても、時間の経過とともに復興がなされ、物理的な傷跡は分からなくなりますが、**命**は戻ってきません。

耐震改修にも、いろいろな方法・工法があるようですので、一度専門家の相談を受けてはいかがでしょうか。

本番の備え その二 セーフティゾーンを確保しましょう。

地震の大きな揺れで、たとえ家具が倒れてこようとも、ガラスが降り注ごうとも、そこで我慢すれば何とか凌げる空間をセーフティゾーンという言葉でお話しています。



自宅のレイアウトを思い浮かべて、「どこがセーフティゾーンになるか。」「どの家具を固定すれば・配置を直せばセーフティゾーンが作れるか。」を考えてください。

そして緊急地震速報が発せられたならば、「耐震補強」された家の中で「セーフティゾーン」に逃げ込んで揺れを凌ぎましょう。

次回は、自宅以外で「緊急地震速報」を聞いたら というテーマでお話しします。